

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

愛媛県宇和島水産高等学校水産増殖科における地域
貢献活動：

保育園の園児に対する出前授業の教育効果

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水野, 晃秀, 佐伯, 英人 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/479

愛媛県立宇和島水産高等学校水産増殖科における地域貢献活動 —保育所の園児に対する出前授業の教育効果—

水野晃秀（愛媛県立宇和島水産高等学校）・佐伯英人（山口大学教育学部理科教育講座）

【要約】

愛媛県立宇和島水産高等学校水産増殖科では、その専門性を活かした地域貢献活動を実施しており、その1つとして保育所や小・中学校で出前授業を行っている。本研究では、保育所で出前授業を行い、その教育効果を検証し、議論した。調査は、出前授業を参観した保育所の職員に対して、質問紙法で実施した。分析の結果、職員は出前授業中の園児の感情を概ねポジティブと見取り、活動内容について概ね良好と評価していたことが分かった。また、出前授業後、食べ物を粗末にしなくなったといった園児の具体的な変容の姿がみられ、教育効果が継続したことも分かった。教育効果が継続した要因として、出前授業の内容と園児の日常生活との関連が考えられる。

【キーワード】

出前授業、教育効果、チリメンモンスター

I はじめに

「チリメンモンスター」とは、チリメンジャコ1)の混獲物のことであり、チリメンジャコに入っているジャコ以外のものを指している。なお、このチリメンモンスターは、きしわだ自然友の会（岡本，風間，日下部，藤田，渡邊）の登録商標（区分41類・第5289688号）である。ちなみに、加工水産物としてのチリメンモンスターは、カネ上（和歌山県有田郡湯浅町田336番地）の登録商標（区分29類・第5272412号）である。

近年、愛媛県立宇和島水産高等学校水産増殖科（以下、水産増殖科）は、職業人の育成だけでなく、その専門性を活かした地域貢献活動を実施している。その1つとして保育所や小・中学校で出前授業を行っている2-4)。本研究の目的は、保育所の園児を対象として、水産増殖科が実施した出前授業の効果を検証し、議論することである。

II 出前授業の実際

水産増殖科は保育所「宇和島済美保育園」の園児28名を対象として、2011年10月18日に
出前授業「チリメンジャコについて」を行った。出前授業で用いた教材は、前述したチリメンモンスターである。使用したチリメンモンスターは、カネ上の「チリメンモンスター」と朝日共

販の「しらすのお友達」（別名：シラスモンスター）であり、カネ上の「チリメンモンスター」を使用した班が3つの班、朝日共販の「しらすのお友達」を使用した班が3つの班であった。学習班は各班4～5名で編成した。

出前授業の展開を表1に示す。出前授業を実施する目的は主として次の2つであった。

- ① 園児の魚に対する興味・関心を高める。
- ② 魚食（食育）教育の推進に寄与する。

出前授業の活動のようすを図1～図3に示す。

表1 出前授業の展開

授業の内容	
1	・ 自己紹介
2	・ プレゼンテーションソフトを使用したチリメンモンスターの概説
3	・ チリメンモンスターの分類・観察
4	・ 出前授業のまとめ
5	・ チリメンジャコの試食



図1 チリメンモンスターの分類・観察



図2 出前授業のまとめ



図3 チリメンジャコの試食

Ⅲ 質問紙の作成と調査の方法

質問紙調査の対象は、出前授業を参観した保育所の職員 19 名である。質問紙には問 1～問 3 を設定した。問 1 の項目は佐伯⁵⁾を参考として作成した(表 2)。また、問 2 の項目は出前授業の内容を基に自作した(表 3)。

問 1 では「出前授業中、園児はどのような感情をもったと思いますか。園児のようすを見て思ったことを教えてください。あてはまる番号に○を 1 つつけてください」という教示を行い、5 件法で回答を求めた。

問 2 では「出前授業中、また、出前授業後の園児のようすを見て思ったことを教えてください。あてはまる番号に○を 1 つつけてください」

という教示を行い、5 件法で回答を求めた。

なお、問 1・問 2 の 5 件法は、まったくあてはまらない(1 点)～とてもあてはまる(5 点)とした。

問 3 では記述欄を設定し、「出前授業中、また、出前授業後の園児のようすを見て思ったことを自由記述で教えてください」という教示を行い、回答を求めた。

調査は、出前授業後(2011 年 11 月 16 日：出前授業を終了した約 1 カ月後)の 1 時点で行った。

Ⅳ 分析方法と結果

(1) 問 1 の分析方法と結果

問 1 の各項目の平均値と標準偏差を算出した。結果を表 2 に示す。表 2 の問 1 で※を付けた 5 つの項目(項目②、項目③、項目④、項目⑥、項目⑨)はネガティブな感情である。これらの項目は逆転項目であるため、5 点を 1 点に、4 点を 2 点に、3 点を 3 点に、2 点を 4 点に、1 点を 5 点にして換算した。すると、項目②は 4.25、項目③は 3.94、項目④は 4.19、項目⑥は 4.69、項目⑨は 4.56 となる(表 2)。

(2) 問 2 の分析方法と結果

問 2 の各項目の平均値と標準偏差を算出した。結果を表 3 に示す。

(3) 問 3 の分析方法と結果

問 3 の自由記述に回答した人数は 15 名であった。これらの自由記述の内容を読み取り、内容の同質性に従って分類した。

その結果、「園児の魚に対する興味・関心が高まった」といった趣旨の記述が 12 名にみられた。この他、園児の具体的な変容としては「食べ物を粗末にしなくなった」や「絵本を見るようになった」といった記述がみられた。

表2 保育所の職員の見取り（質問紙の問1について）

項 目	人 数	平均値 (標準偏差)	換算 (標準偏差)
① わくわくした	16	4.88 (0.34)	—
② 気持ち悪かった (※)	16	1.75 (0.45)	4.25 (0.45)
③ かわいそうに思った (※)	16	2.06 (0.77)	3.94 (0.77)
④ こわかった (※)	16	1.81 (0.54)	4.19 (0.54)
⑤ おもしろかった	16	4.88 (0.34)	—
⑥ 嫌だった (※)	16	1.31 (0.48)	4.69 (0.48)
⑦ 興味津々だった	16	4.88 (0.34)	—
⑧ 楽しかった	16	4.88 (0.34)	—
⑨ きたないと思った (※)	16	1.44 (0.51)	4.56 (0.51)
※：ネガティブな感情			min=1 max=5

表3 保育所職員の見取り（質問紙の問2について）

項 目	人 数	平均値 (標準偏差)
① 出前授業は良かったと思う	16	4.81 (0.40)
② 園児はチリメンモンスター探しを積極的に取り組めていたと思う	16	4.81 (0.40)
③ 顕微鏡を使ったことで、新しい発見ができていたように思う	16	4.88 (0.34)
④ 園児はチリメンジャコとチリメンモンスターの区別ができると思う	16	4.25 (0.58)
⑤ 園児は煮干しとチリメンジャコが同じ魚（原料）だということがわかったと思う	15	4.00 (0.54)
⑥ 園児はチリメンモンスターに興味・関心をもったと思う	16	4.63 (0.50)
⑦ プレゼンテーションでチリメンジャコができるまでの過程を紹介したことは園児にとって理解しやすかったと思う	15	4.40 (0.63)
⑧ 出前授業後、園児からチリメンモンスターに関する内容を聞く機会が増えたと思う	15	3.60 (0.63)
⑨ 出前授業を通して、魚類（生物としての魚）への興味・関心をもつことができたと思う	18	4.39 (0.50)
⑩ 出前授業を通して、魚類を食べること（食料としての魚）への感謝の気持ちをもつことができたと思う	18	4.56 (0.51)
⑪ 出前授業は園児の勉強になったと思う	16	4.81 (0.40)

V 考察

問1の各項目の平均値は、9つの項目のうち8項目が4点以上であった。また、比較的低い値を示した項目③も3.94であり、4点に近い値といえる。このことは、保育所の職員が「出前授業中、園児の感情は概ねポジティブであった」と見取ったことを示している。

問2の項目において、平均値が4点以上であった項目は11項目のうち10項目あった。このことは、出前授業について概ね良好な評価が得られたことを示している。ただし、問2の項目⑧は3.60であり、比較的低い値を示したといえる。項目⑧は「出前授業後、園児からチリメンモンスターに関する内容を聞く機会が増えたと思う」である。出前授業後の約1カ月、園児が日常的にチリメンモンスターにふれる場面はなかった。そのため、時間の経過とともに園児がチリメンモンスターのことを話題にしなくなったものと思われる。

問3の自由記述の回答から、園児の魚に対する興味・関心が高まったことが分かった。また、園児の具体的な変容の姿がみられ、教育効果が継続したことも分かった。

教育効果が継続された要因の1つとしては、日々の食事の献立の1つとして魚が登場することにより、出前授業の体験が起思されたことが考えられる。もう1つの要因としては、さかなの絵本や図鑑が園児の身近にあり、よく目にしていたことがあげられる。

VI おわりに

本研究では、出前授業中、園児の感情は概ねポジティブであり、また、出前授業の活動内容についても概ね良好という評価が得られた。出前授業後、食べ物を粗末にしなくなったといった園児の具体的な変容の姿がみられ、教育効果が継続したことも分かった。教育効果が継続した要因として、出前授業の内容と園児の日常生活との関連が考えられる。

今後、出前授業の内容と園児の日常生活との関連に視点をあてて研究していきたい。

謝辞

ご指導・ご助言・ご協力いただきました宇和島済美保育園所長の三好英矩氏と職員の方々、きしわだ自然資料館主任学芸員の風間美穂氏、株式会社カネ上営業三課商品企画部チーフの柳本洋子氏、朝日共販株式会社代表取締役の福島大朝氏と総務課の佐々木伊津子氏に感謝の意を表します。

【引用文献】

- 1) きしわだ自然友の会：「チリモン博物誌」，189pp，幻戯書房，2009.
- 2) 水野晃秀：「特集 水産・海洋系高等学校における地域貢献活動の取り組み 愛媛県立宇和島水産高等学校」，日本水産学会誌，77-3，421-423，2011.
- 3) 水野晃秀・佐伯英人：「水産高校の専門性を活かした出前授業の実践ープランクトンを教材とした授業の教育効果ー」，日本理科教育学会四国支部会報，29，8-9，2010.
- 4) 水野晃秀・佐伯英人：「水産高校の専門性を活かした出前授業の実践(Ⅱ)ーチリメンモンスターを教材とした授業の教育効果ー」，日本理科教育学会四国支部会報，30，103-104，2011.
- 5) 佐伯英人：「解剖に対する学生の意識」，第56回日本理科教育学会中国支部大会研究発表論文集，A9，2007.